

大空 (生徒・保護者向け) 34号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年4月9日(金)

二人の太郎の力(附属中学校入学式式辞)

□本日の概要

- JAXAの宇宙飛行士選抜の最終候補生を絞るための面接の質問は「浦島太郎と桃太郎どちらが好きか」という問いであるが、これは物事を柔軟に認識して、マニュアルにない不測の事態に遭遇しても焦らず柔軟に対処できる能力、情緒的な余裕があるかを問うている。
- 浦島太郎は他者に共感する力、どんな場所でも適応する力、すなわち豊かな感性と柔軟性を持っている。
- 人間の強みは豊かな感性を持つことである。中学校で、周囲と折り合いながら様々な体験を積み、豊かな感性、柔軟性、真の協調性を身につけて欲しい。

□新しい仲間との出会いを大切に夢をふくらませよう

校庭の桜の花びらが春風に舞い、若葉が一斉に芽吹き始めたこの佳き日に、宮崎西高校PTA会長、請関八芳様、PTA中学部会長、田迫昭彦様のご臨席を賜り、ここに第15回宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校入学式を挙げていただけますことは、私たち教職員一同、誠に喜びに堪えないところであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可されました新入生80名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、今日の日を、期待と同時に、若干の不安の入り交じった思いで迎えたことと思います。今日からは、新しい先生や各地から集まった新しい仲間との出会いを大切に、様々なことを語りあい、夢を膨らませて欲しいと思います。

さて、皆さんがこれから迎える時代は、誰も体験したことのないような変化の激しい時代です。アップルのiPhoneが日本で初めて発売されたのは2008年ですので、ちょうど皆さんが生まれた頃です。このわずか十数年で、スマホは私達のインフラとなり、世界は大きく変わりました。今後もめまぐるしい技術革新は続き、AIはさらに進化し、仕事や生活スタイルも大きく変化するでしょう。さらに、皆さんの半数以上は、100歳以上長生きするというデータもあります。このような時代を迎え、

皆さんには、今まで以上に、様々な力が必要になっていますが、それでは、みなさんに、今、最も必要とされている力とは何でしょうか。

□桃太郎と浦島太郎どっちが好き？

唐突ですが、皆さんは、桃太郎と浦島太郎、どちらの方が直感的に好きでしょうか？あまり深く考えず、直感で教えてください。

実はこの質問は、JAXAで宇宙飛行士選抜の最終候補生を絞るための面接で聞かれた質問なのです。宇宙飛行士の応募者は、日本中から選ばれた優秀な者ばかりです。書類選考で絞られ、さらに多くの難しい試験を突破し、最後の3人に絞る最終面接での問いが、この質問なのです。

私は、この話を聞いた時、この質問には正解はなく、選んだ理由や発想のユニークさを評価するのではないかと思ったのですが、そうではありません。この質問を考えたのは、筑波大学大学院の産業精神医学・宇宙医学グループの教授で、JAXAの併任研究員も兼ねている、松崎一葉(まつぎきいちよう)教授です。松崎教授によれば、この質問は心理学者として有名な河合隼雄先生や牛島定信先生が考え出された、人間の本質を探り出す質問なのだそうです。



医学博士 松崎 一葉

国立大学法人筑波大学大学院
人間総合科学研究科生命システム医学専攻
産業精神医学研究グループ 教授

■著書

- ・『もし部下がうつになったら』
(株)ディスカヴァー・トゥエンティワン
- ・『会社で心を病むということ』等多数
東洋経済新報社

MMSにおけるPRAS開発・研究、MMS導入企業産業医、管理職向け講演会等

□なぜ「浦島太郎」なのか

正解を言うと、宇宙飛行士に選ばれるのは、「浦島太郎」と答えた人で、「桃太郎」を選んだ人は不合格です。ではなぜ、浦島太郎なのでしょう。桃太郎は、鬼退治という明確な目標を持ち、その達成のため、雉・犬・猿という優秀な部下を、吉備団子というほうびでスカウトします。そして、鬼ヶ島に攻め込み勝利し、金銀財宝を手に入れ、育ての親であるおじいさんおばあさんに報います。いわば、桃太郎

は、優れたリーダーシップの下、困難な課題にチームで挑戦し、成功するというサクセスストーリーであり、桃太郎の方が宇宙開発というプロジェクトに向いているような気がします。

それに対して、浦島太郎は、何となく良く分からない話です。誰かに頼まれた訳ではないのに、いじめられている亀を助け、仕事をほったらかしにして竜宮城に行き、遊んで楽しい思いをしたのは良いのですが、開けてはいけないといわれていた玉手箱を開けてしまい、白髪のおじいさんになってしまうという話で、あまりハッピーエンドという感じがしません。桃太郎は、いわば論理的であり、組織的です。それに対して、浦島太郎は、情緒的であり、感情的です。実は、宇宙飛行士になれるかどうかというキーは、この情緒・感情の世界への親和性があるかどうかにかかっているのです。

□浦島太郎の持つ力とは

この問いを考えた松崎教授はこう解説しています。「最終選抜まで残る候補生は皆、極めて優秀である。論理的解決能力は日本でもトップクラスである。そこで求められる資質は、物事を柔軟に認識して、マニュアルにない不測の事態に遭遇しても焦らず柔軟に対処できる能力、つまりは情緒的な余裕である。」また、実際にこのような面接を突破し、日本人女性として国際宇宙ステーションに滞在した宇宙飛行士



山崎直子さんは、「桃太郎にみられる責任感と同時に、浦島太郎のように、何が起きるか予測できない状況でもそれを楽しめる人が宇宙飛行士に向いている。」と語っています。

浦島太郎は、いじめられている亀を放っておくことができませんでした。論理的には、亀などに関わらず、さっさと漁師の仕事に行くべきでしょう。ところが、浦島太郎は、他者へ共感する感情、困っているものがいたら放っておけない、見過ごせないという感情が強いのです。また、浦島太郎は、大金持ちにもなりませんし、結局はおじいさんになってしまいますが、これはお金は人生の目的ではないという意味であり、老人になるのも悪いことをしたことへの罰ではなく、本来の年齢に相応しい姿に戻ったというだけで、不幸になったという意味ではありません。浦島太郎は、どんな状況になろうとも、与えられた状況に適応して、したたかに生きつづけます。つまり、浦島太郎の持つ力とは、豊かな感性であり、どんな状況にも適応できる柔軟性なのです。

□真の協調性とは

豊かな感性を持つこと、どんな状況でも、与えられた状況を楽しみながら生きることができること、これは宇宙飛行士だけでなく、皆さんに必要な資質です。皆さんがこれから過ごす附属中学校も、1学年わずか80名の学校であり、狭い、限られた社会という点で、宇宙船に似ています。そこで大切なのが、浦島太郎のような豊かな感性と、与えられた状況を楽しむことができる柔軟性なのです。現在、チームワークやコミュニケーションという言葉が重視されていますが、このような外来語が輸入される前から、日本人はこれを「折り合いをつける」と表現していました。「折り合いをつける」とは、辞書には「互いに譲り合って一致点を見つけること」とあります。これを「妥協」というとマイナスイメージがありますが、「折り合い」という言葉には前向きなイメージがあります。誰とでも仲良くできるというのはたしかに理想ですが、現実にはそれができないこともあります。それでも協調することは大切ですが、真の協調性とは、周囲の空気を読み、対立しないことではありません。真の協調性とは、考え方が違う人がいても、諦めずに話し合い、粘り強く思いを伝えると同時に、異質な他者の考え方も受け入れていくこと、異質なものを多様性を認めることなのです。

学校は、論理的、理性的な学問だけを学ぶ場所ではありません。学校という集団でしかできないこと、すなわち、異質な者同士が話し合い、課題解決を考え、コミュニケーションを取る能力を身につけたり、他者と協力し、新たな価値を考えたり、感性を豊かにする体験をしたりする場所です。論理や計算では、コンピューターが人間を超えようとしています。逆に言えば、私達人間の強みはコンピューターの持たない感性なのです。積極的に他者に関わり、様々な体験を積んで、浦島太郎のような豊かな感性、真の協調性を身につけて下さい。

最後になりましたが、保護者の皆さまにおかれましては、お子様の入学、おめでとうございます。現在、私達を取り巻く状況を見ると、特に不安なお気持ちであったかと拝察いたします。しかし、ここにいる子どもたちは、宮崎、いや、世界の宝です。現状の厳しさの中で、自分たちが何をなすべきかを理解できる子どもたちばかりであると信じています。私達教職員は、全力で、この宝のような子どもたちを育てます。ご心配なことは何でも御相談ください。私達は、全力でこの子どもたちの命を守ります。お子様方の中学校生活が充実したものになるよう、教職員一同、全力で支援することをお約束し、式辞といたします。